

地球温暖化対策に関する国民対話 ～チャレンジ 25 日本縦断キャラバン～
(東京会場) における意見概要

(東京会場)

日 時：平成 22 年 5 月 18 日 (火) 18:00～19:50

場 所：都市センターホテル

参加者：約 180 名

※ 中央環境審議会中長期ロードマップ小委員会及び国内排出量取引制度小委員会より、明日香委員、牛久保委員、影山委員、富田委員、西岡委員、村上委員、諸富委員にも御参加いただいた。

- 冒頭、小沢環境大臣から挨拶
- CO₂削減に向けた世界の先進事例に関する映像放映
- 環境省より地球温暖化の現状と影響、国際交渉の状況、地球温暖化対策に関する中長期ロードマップ、国内排出量取引制度の論点等について説明
- 会場との意見交換
- 大谷環境大臣政務官から挨拶

《会場からの意見》

(中長期ロードマップについて)

- ・ 現政権になって、中期目標がロードマップ検討委員会で 25%削減となった。この数字の変更について実効性をどう判断したのか。また、民生・運輸部門での排出が著しいのにそのしわ寄せが産業部門に寄せられるのではないかと。キャップの上乗せを産業部門に寄せようとしているのではないかと。ゆくゆくは目標を見直すのか。
- ・ 産業地帯の対策をどう進めるのか。
- ・ ロードマップ作成は高く評価するが、原発 8 基の増設は積み過ぎではないかと。
- ・ 原子力発電の負の部分についての議論が少ない。クリーンなイメージが強すぎるのではないかと。
- ・ 環境省の試案を評価、ただ、家庭での取組は詳しく載っているが、電力係数が悪化したのでは排出が増えてしまう。需要サイドだけでなく、電力の供給サイドのインセンティブをもっとクローズアップして欲しい。

- ・ 再生可能エネルギーについて高い目標を掲げるのはいいことだが、太陽光発電普及に向けた人材養成などの具体的な道筋を示し、全員参加でやるということを盛り立てて欲しい。
- ・ ロードマップの経済効果について、25%などの高い削減目標を掲げた方が経済に良いという主張に疑問がある。電力買い取りなども結局コストは物価に跳ね返る。それで投資と言えるのか。
- ・ 脱フロンを打ち出したことは評価。地球温暖化対策税の中でフロンにも課税して欲しい。
- ・ 改正省エネ法で住宅の気密性（C値）の規定が落ちたが、今後どういう方向に向かっていくのか。高气密化はいったん見送られたとの理解でよいのか。
- ・ 意欲的な取組は評価。一方でエネルギー基本計画とどのように整合性を取るのか。

(国内排出量取引制度について)

- ・ キャップ・アンド・トレードについて、石炭火力が3倍に伸びる中、直接排出で設計すべきではないか。
- ・ キャップ・アンド・トレードについて、原単位の検討が残ってしまったが、これでは総量削減が担保されないのではないか。
- ・ 先行している都の制度と今後どう整合性をとるのか。

(国際交渉について)

- ・ COP15 は成功か失敗か伺いたい。

(以上)